



令和 5 年度には、福岡の八女茶発祥600年祭式典など多くのイベントが開催されたほか、18年振りに福岡県で全国お茶まつりが開催され、八女市がメイン会場となった。

記念ロゴマーク



八女茶発祥600年、伝統を継承する。

霊巖寺開祖・栄林周瑞が伝えた茶の栽培が、村の名主により広められたのが八女茶のはじまり。



霊巖寺開祖・栄林周瑞

八女茶をつくる

躍進

八女市の飛躍には、常に「人」の支えがある。多くの八女人の努力と情熱が、ふるさとに光を降らせ、大きな八女の魅力となって、また次の時代の新しい八女市を切り拓いていく。



本当にいいものは必ず残る
八女茶の未来は
今を生きるつくり手
ひとりひとりの手腕に
託されている



量より品質を重視した八女茶は、葉の芽を少なくして葉を大きくしっかりと育てます。一般的な緑茶と比べて味が濃厚で日本有数の高級茶産地として全国に名を馳せています。



01

茶業

「八女伝統本玉露」は茶業として全国で初めてGI登録され、その品質を守っています。



● INTERVIEW VOICE

八女茶発祥 600 年の誇り

第 77 回全国茶品評会玉露日本一

倉住 努さん

八女茶発祥 600 年。長い歴史の上にありますが、現在八女市では、「煎茶」を中心に、山間部では「玉露」が生産されています。生産量は全国の 2% ほどですが、全国で茶産地がしのぎを削る中、こうして日本の八女茶といわれるまでに成長できたのは八女が茶の栽培に向いていたからだと思えます。水はけの良い地質、ほどよい気温の日較差、降水量。その恵まれた土台の上に先人のたゆまぬ努力がありました。それを私たちは受け継ぎ発展させていかねばなりません。八女茶を茶産地として守っていくためには、生産者、指導者、自治体の産学官がともに同じ方向を向き、支え合うことが重要です。八女茶をいかにつないでいくか。歴史に立ち合った私たちの使命です。今、全国の自治体では、わがまちの顔となる産物を新たに作るうと一生懸命です。八女には既にあります。きびしい状況ではありますが、みんなで頑張ります。

八女茶の歴史



- 1423 名主・松尾太郎五郎久家が黒木町笠原に茶園を広める
- 1831 山間で茶栽培広がる
- 1879 玉露生産が福岡県で初めて行われる
- 1884 県茶業取締所(福岡町)をおく
- 1904 星野村で玉露の試製をおこなう
- 1922 機械製茶が始まる(光友村)
- 1926 農事試験場茶業部をおく(岡山村)
- 1928 福岡県茶業組合を設立する
- 1947 全国製茶品評会を行う
- 1963 福岡県茶生産組合連合会が結成される/霊巖寺で献茶祭が始まる
- 1969 八女中央大茶園着工
- 1971 福岡県茶商工業協同組合を設立する/防霜ファンの普及はじまる
- 1982 福岡県八女茶手もみ保存会が発足する
- 1997 八女伝統本玉露の名称使用が始まる
- 2006 乗用型管理機対応玉露施設を竣工する
- 2015 八女伝統本玉露が国の地理的表示(GI)の第5号に登録される
- 2023 全国茶品評会玉露の部で産地賞を23年間連続で受賞する/福岡の八女茶発祥600年祭を八女市で開催する